



# 西部教育局からのお役立ち情報

## 今月のトピック紹介版

2月号

### 「特別の教科 道徳」(道徳科)の充実を図る!!! ～多様な指導方法による授業改善に向けて～

小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から「特別の教科 道徳」が全面実施となります。「特別の教科 道徳」では、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う、「考え、議論する」道徳教育を目指しています。

問題解決的な学習や体験的な学習など、教師には今まで以上に指導方法の工夫・改善が求められることとなります。今回は、福米西小学校の実践から、多様な指導方法についてのポイントを再確認しました。

今後、授業者が学校や子供の実態を踏まえ、より適切な指導方法を選択する際の参考としてお役立てください。

### 園から小学校への円滑な接続に向けた取組の充実のために ～園訪問・聞き取り必勝法～

各学校では、小学校入学の子供たちを迎え入れる準備が行われていることと思います。園生活から小学校生活への移行は、大きな環境の変化であり、戸惑いから不安やつまずきが起こることも想定されます。それらを軽減するためには、園での子供の育ちを把握し、できることを確実につなぐことが大切です。

本号では、子供や集団の育ちを的確に捉えるための視点について紹介していますので、園訪問時の参観及び聞き取りの際の参考として御活用ください。

### 特別支援教育ほっと通信 ～「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成・活用～

障がいのある児童生徒が、社会で自立して生きていく力を身に付けるためには、一貫した指導や必要な支援が適切に提供されることが必要です。また、学校全体で「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」が存在するメリットを十分に理解し、作成・活用していくことがとても大切です。本号では、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成・活用のポイントをまとめていますので、今年度のまとめや次年度に向けての準備にお役立てください。

# 「特別の教科 道徳」（道徳科）の充実を図る!!! ～多様な指導方法による授業改善に向けて～

価値観が多様化する社会においては、物事を多面的・多角的に考えたり、答えが出せない問題にも考え続けたりすることができる力が求められます。道徳科においても、答えが一つではない道徳的な課題を、子供たちが自分自身の問題として向き合い、自己の生き方についての考えを深めるための「考え、議論する道徳」への転換が必要です。この具体的な指導方法の一例が『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 平成 28 年 7 月 22 日）で例示されました。本号では、福米西小学校の実践から、多様な指導方法についてのポイントを再確認したいと思います。

## 「道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）」

	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
ねらい	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。
具体例	導入	道徳的価値に関する内容の提示	問題の発見や道徳的価値の想起など
	展開	登場人物への自我関与 ① 振り返り	問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など） 探究のまとめ
	終末	まとめ	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など 道徳的な問題場面の把握や考察など 問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など ② 道徳的価値の意味の考察など

『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）の「別紙1」より抜粋

問題解決的な学習については、以下の冊子に実践例が紹介されています。

- ◆小学校 『初等教育資料 2016年5月号』
- ◆中学校 『中等教育資料 2016年6月号』



あくまでも多様な指導方法の一例であり、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。

授業では、それぞれの指導方法を組み合わせるなど、様々な展開が考えられます。指導者が学校や子供の実態を踏まえて、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要です。

≪米子市立福米西小学校の実践≫

小学校 第1学年  
主題名 だれにでもやさしく 2-(2) 親切  
資料名 はしのうえのおおかみ (「一年生のどうとく」文溪堂)

### ① 登場人物の心情から道徳的価値について考える

#### 子供の発達段階に応じた教具の工夫

吹き出しペーパーサートを用いることで、子供たちは登場人物になりきって心情を語っています。

渡らせるもんか！

この橋はぼくのものだ！



福米西小の低学年部会では、登場人物の心情について実感を伴った「頭と心の理解」を目指して、“どっぷりとお話の世界に浸る”ことを重視した実践を積み重ねています。



この遊び、面白いからもっとやろう。

### ② 役割演技により、登場人物の心情の変化に迫る

#### 子供の言葉を引き出す工夫

教師がインタビュアーになり、質問をしていきます。登場人物の心情を実感を伴って理解し、ねらいとする道徳的価値への理解を深めます。



全ての子供が考えたくなる秘訣とは...?

#### ★おおかみ役の子供へのインタビュー★

教師：どうしてこんなに変わったんですか？  
 子供：これからは親切にしようと思いました。  
 教師：どうしてですか？  
 子供：みんなも意地悪になるからです。みんなも優しくなるし、自分もいい人になります。  
 教師：どんな気持ち？  
 子供：最初よりうれいです。  
 教師：最初（意地悪をしている）時も嬉しかったじゃない？  
 子供：最後の方がずっと気持ちがいい。  
 教師：くまさんにしてもらった時も嬉しかったじゃない？  
 子供：こっちの方がいい。いつも親切にしたいくなりました。



役になることができなかった子供たちに対して、「役になったつもりで一緒に考えてね。」という教師の言葉かけがありました。安心して、全員で学び合う学級づくりが、道徳の学習の充実には不可欠です。



# 園から小学校への円滑な接続に向けた 取組の充実のために ～園訪問・聞き取り必勝法～

この時期、年長児は、小学校への入学をとっても楽しみにしています。一方で、園生活から小学校生活への移行は、大きな環境の変化であり、戸惑いから不安の高まりやつまずきが起こることも想定されます。この不安やつまずきを軽減するためには、園での子供の育ちを十分に把握し、できることを確実につなぐことが大切です。また、課題については効果の高い支援を積極的に行っていくことが必要です。そして、子供や集団の育ちを的確にとらえるためには、園と学校とが訪問時の参観及び聞き取りの視点について共有することが重要です。小学校入学に向けての園訪問を有効活用し、子供にとっての円滑な接続を実現しましょう。

## ① 小学校での生活や学習に生かす 参観の視点

### 子供の学びの育ち・保育者の効果的支援を確認する

小学校でも重ねて行う支援や、教室環境について協議しましょう。



体温調節して脱いだ服をたたみ、邪魔にならない所に置く



使い終わった短縄を結んで所定のかごへしまう



見通しを持って活動に取り組める



ロッカーを二人で共有し整理整頓できる



椅子のテープに体の中心を合わせて座る



姿勢保持を心がけ、子供同士で互いに声をかけ合える

一日の予定を文字と絵カードで示す



継続指導を通して身に付いた力を確認する

保育者の支援の具体から育ちつつある力を確認する

効果的支援を確認することで、子供達が身に付けた力を発揮できる環境を整える

## ② 小学校での生活や学習に生かす 聞き取りの視点

一人一人のよさ、特性と課題

経験・体験活動の具体

集団の力と特性

を確認する



一人一人の子供について、物事の認知状況を理解するようにしています。見て理解することが得意なのか、聞いて理解することが得意なのか、具体的な活動を通して理解することが得意なのかを、日常の様々な場面で繰り返し確認しながら、個に応じた必要な支援を心がけています。

集団への働きかけの中にも、一人一人の特性に応じた、個への関わりを大事にするようにしています。

幼児期の学び、育ちの様子、指導の在り方を生かして

スタートカリキュラムの改善へ

子供の視点からとらえると、小学校生活では一番下の学年となり、これまでの下級園児をお世話する立場から、お世話される存在となることも大きな環境の変化です。園で育まれた力を更に伸ばすためには、上記の2つの視点で得た情報を全職員で確実に共通理解することが大切です。また、子供の伸びる力・伸びようとする力を摘んでしまわないよう、上級生の関わり方についても十分議論することが必要です。



# 特別支援教育ほっと通信

「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成・活用

2017年2月 西部教育局

## 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、社会自立を支えるツール！

昨年7月に開催された「平成28年度特別な支援を必要とする子どもたちの明日を語る会」（県教育委員会と福祉保健部の共催）で、参加者から次のような質問等がありました。

「個別の教育支援計画や個別の指導計画を見せてもらったことがないのですが・・・」

「個別の指導計画は開示してもらえないとよく聞きますが・・・」

障がいのある児童生徒が社会で自立し生きていく力を身に付けるためには、一貫した適切な指導、必要な支援が提供されることが必要です。それらを実現するための一つの方策として、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を**保護者や関係者と連携し作成・活用すること**が挙げられます。

## 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」が存在するメリット

### 【教師にとってのメリット】

- ・目標や指導内容、児童生徒の様子等について、関係者が**情報を共有**することができ、めざす児童生徒の**姿が明確**になる。
- ・**家庭との共通理解**や学校の**説明責任**を果たすツールとなる。
- ・**引継ぎの資料**となり、一貫性のある指導が行うことができる。

### 【子供にとってのメリット】

- ・一貫性のある支援を**長期的・継続的**に受けることで、**自立と社会参加を実現**することにつながる。
- ・一人一人の教育的ニーズに応じた**教育課程**が編成されることで、**能力や可能性を最大限に伸ばす**ことができる。

作成・活用されないことで...

支援が途切れてしまった！  
昨年と同じ学習をしている！

子供の育ちの  
**停滞！  
後退！！**

「メリット」を十分に理解すること！

「可能性の芽」を育てる基礎づくり

**自立して生きる力**

## 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成のポイント

### 【個別の教育支援計画】

- 長期的な視点に立って**幼児期から学校卒業後までの一貫した支援**を行うもの
- 家庭や福祉、医療、労働等の関係機関と連携して取り組むもの**
- 学校が中心となって作成するもの**
- 2～3年を目安に作成するもの**

### 【個別の指導計画】

- 教育課程を具現化したもの**
- 学校等での指導における一人一人の**指導目標や指導内容・方法等の明確化**を図るもの
- 学校が責任をもって作成するもの**
- 1年ごとに作成するもの**

本人のニーズの把握！  
関係機関との連携！

保護者等との情報共有！  
PDCAサイクルでの見直し！

## 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用のポイント

- 共通理解の場の設定…学年団やグループ等
- 日々の記録…指導計画に加筆、付箋の活用
- 整理・保管の工夫…いつでも誰でも確認できるファイリング
- 作成の協力…担任を中心に複数の関係者で協力して作成

- ポイントを絞った説明…課題と目標に限定
- 評価・反省の共通理解…途中経過も共通理解

いつでも見ること・見せることができる（開示できる）準備！

**活用することにより期待されること**

**児童生徒の成長や変容を確認**

**保護者支援の充実**

**一貫した支援の継続を強化**

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」のいずれも、作成には多くの時間と労力を要しますが、作成後に「**いかに活用するか**」「**どのように役立ってるか**」ということが重要です。日々の指導や支援が効果的に行われるように、児童生徒に携わる関係者が情報を共有し、指導・支援の一貫性を図るためのものであり、担任や環境がかわっても継続的な指導・支援ができるようになります。これらの特性を理解した上で、保護者を含めた関係者で共有し、様々な場面で活かしていただきたいと思えます。

- ＜参考＞ ① 特別支援学級担任のための手引き 平成22年3月 鳥取県教育委員会  
② 特別支援学級担任のための手引き 第2号 平成23年1月 鳥取県教育委員会  
③ 個別の教育支援計画～作成・活用マニュアル～ 平成27年3月鳥取県教育委員会

